

# 生涯学習におけるシニア大学生の現状と課題

—— 神戸山手大学のシニア学生を対象にした質問紙調査の結果から ——

## A Study on “Senior Students” about Lifelong Learning: A Questionnaire survey at Kobe Yamate Univ.

飯 嶋 香 織  
行 木 敬

キーワード：シニア層、生涯学習、大学開放、神戸山手大学

### 要 旨

神戸山手大学では、50歳以上の方が正規の学部学生として入学できるシニア50+制度を2008年にスタートさせた。本論文は本制度で入学したシニア学生を対象に質問紙調査を実施し、7年目を迎えたこのシニア50+制度の現状と意義を考察するものである。大学入学の理由や経緯では、視野を広げるや最新の知識を学びたいなど、学ぶことそれ自体を目的と考え、さらに大学への憧れといった大学生活への漠然とした期待や生活全体を充実させたい気持ちが進学動機として大きかった。入学後の大学生活の満足度は高く、入学前に心配であった語学やパソコンなどは予習・復習を熱心に行い、乗り越えている姿も見えてきた。大学での友人関係は概ね良好で、若い学生とともに学び楽しんでいる様子もあきらかになった。

### 1. はじめに

神戸山手大学では、50歳以上の方が正規の学生として入学できるシニア50+（プラス）制度を平成19年にスタートさせた。本制度は7年が経過し、平成26年3月には3期の卒業生を送り出し、この4月は7期生となる8名の新入生を迎えた。神戸山手大学に入学したシニア学生は、1年次の基礎ゼミナールをシニア学生のためのクラスで受講する以外は、語学、ゼミなども含めすべての科目を一般の学生とともに受講し、卒業時には学士の学位を取得できる正規のコースである。本論文は、7年目を迎えたこのシニア50+制度の現状と意義を考察するものである。

昨年度、シニア学生（在學生、卒業生の計5名）を対象に、入学への経緯や入学前に障害であったこと、大学生活全般について、卒業後についてなどの聞き取り調査をおこなった。その成果を飯嶋・行木（2013）「生涯学習におけるシニア大学生の学びのニーズ ——神戸山手大学のシニア学生を対象にした調査結果から——」として報告した。本論文は神戸山手大学のシニア学生を対象にした継続の調査研究である。

昨年度の聞き取り調査は対象者が5名と少なかった。そこで今年度は神戸山手大学のシニア学生の全体像の把握のため、シニア学生全員（在校生のみ）を対象に質問紙調査を実施した。質問紙調査の分析を通して神戸山手大学のシニア学生の全体像の把握、シニア学生の現状と意義、生涯学習としての大学の役割について考察をおこなうことが本論文の目的である。

## 2. 研究の背景と今年度の研究の目的

昨年度のシニア50+（プラス）制度について在學生、卒業生を対象に行った聞き取り調査の結果、いくつかのことがあきらかになった。

第一に、本学に入学した学生は、正規生として大学で学ぶことを選択して本学に入学していることである。シニア層への大学開放について、堀（2011）は2つの対比的なシニア向け大学開放の事例として、「分離型」の事例として園田学園女子大学を、「統合型」の事例として神戸山手大学をとりあげている。分離型の事例（園田学園女子大学）は、生涯学習センターが中心となり、シニア専修コースでコース専用に設置された科目で学び、正規学生として一般学生とともに学ぶシステムではない。この分離型は多くの大学で実施されている大学の生涯学習講座の延長上にあるものという見方をすることができよう。それに対して、「統合型」の神戸山手大学ではシニア学生は正規の大学生であり、すべての授業、ゼミ、さらに課外活動までも一般学生とともに学ぶ統合型で、先進的な取り組みであるとしている。

学びについては、飯嶋・行木（2013）の昨年の調査から神戸山手大学のシニア学生は単発の講座では得られない学びを求め、大学生として勉強だけでなく大学生生活にコミットメントをすることから得られる充足感や満足感を感じていること、さらに大学の学びを通して、さらに学ぶ意欲が高まるという学びの好循環も生じていることが明らかになった。

勉学以外ではシニア学生は同じシニア学生同士で遊びに行ったり、若い一般学生と一緒にクラブ活動に参加したりするなど、大学生活を積極的に楽しんでいるシニア学生の姿が浮き彫りになった。

しかし、シニア学生の大学に入学にはいくつかの障壁があることが予想される。出相（2009）が指摘するように、市民大学受講生の中でさらに今後大学に入学希望している者の中で、正規学生として大学入学への阻む要因となっていることを調査すると、学生自身が、年齢面、健康面などに不安を感じ、さらに卒業までに時間がかかりすぎることや、経済的要因をあげていた。

聞き取り調査も今回の質問紙調査も実際に入学をしているシニア学生を対象にした調査であり、入学を希望しても入学出来なかった層のことはわからない。調査対象は実際に大学に入学した学生に限定されるが本年度は、シニア在學生全員を対象に質問紙調査を通して全体像をとらえることを目的とした。

上記のことをふまえて本論文では、シニア学生を対象にした質問紙調査の分析を通して、神戸山手大学入学の理由や経緯、入学前の不安や障害、入学後の大学生生活の3つ焦点をあてる。

### 3. 質問紙調査の概要と回答者の属性

#### 3. 1 調査の概要

本調査は神戸山手大学（兵庫県神戸市）に在籍するシニア学生を対象に質問紙調査を実施した。調査の概要は以下の通りである。

- ・調査対象：神戸山手大学 シニア学生 1年生～4年生（2014年3月時点）
- ・調査期間：2014年3月
- ・調査方法：郵送で質問紙を配布して郵送で回収  
：記入は無記名
- ・配布数と回答数：配布数 39 回収数 35（※回収率89.7%）

#### 3. 2 回答者の属性

回答者の属性は以下の通りである。

図表1 性別

	回答者数	%
男 性	13	37.1
女 性	22	62.9
合 計	35	100.0

図表2 年齢

	回答者数	%
50～54歳	5	14.3
55～59歳	3	8.6
60～64歳	12	34.2
65～69歳	10	28.6
70～74歳	5	14.3
合 計	35	100.0

図表3 学年

	回答者数	%
1年生	6	17.1
2年生	7	20.0
3年生	7	20.0
4年生、 5年生以上	15	42.9
合 計	35	100.0

### 4. 調査結果と考察

#### 4. 1 大学入学の理由や経緯

大学入学の理由や経緯についての質問は24項目でその結果が図表4である。図表4では、「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答の合計が大きかった質問項目順に並べてある。

最も合計が大きかったのは「自分の視野を広げたかったから」「大学そのものに憧れていたから」「生活を充実させたかったから」3つの質問項目で、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が90%を越えていた。次に「幅広い一般教養を身につけたかったから」「神戸山手大学が通いやすい場所にあるから」「シニア奨学金があったから」「大学で最新の知識や技術を学びたいと思ったから」は80%台の回答率であった。

視野を広げるや最新の知識を学びたいなど、学ぶことそれ自体を目的と考えていたこと、大学への憧れや生活全体を充実させたい気持ちが進学動機として大きいことがわかる。それと同時に大学が神戸市の中心である三宮から徒歩15分、元町から徒歩10分に位置する立地の良さと、

図表4 入学の経緯

		あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計	ややあてはまるとあてはまるの合計
1	自分の視野を広げなかったから	2.9%	0.0%	38.2%	58.8%	100.0%	97.1%
2	大学そのものに憧れていたから	5.7%	2.9%	40.0%	51.4%	100.0%	91.4%
3	生活を充実させたかったから	2.9%	5.9%	41.2%	50.0%	100.0%	91.2%
4	幅広い一般教養を身につけたかったから	12.1%	3.0%	30.3%	54.5%	100.0%	84.8%
5	神戸山手大学が通いやすい場所にあるから	5.7%	11.4%	20.0%	62.9%	100.0%	82.9%
6	シニア奨学金があったから	5.7%	11.4%	22.9%	60.0%	100.0%	82.9%
7	大学で最新の知識や技術を学びたいと思ったから	8.6%	8.6%	34.3%	48.6%	100.0%	82.9%
8	色々な人に出会えるから	8.6%	20.0%	48.6%	22.9%	100.0%	71.4%
9	高い専門性を身につけたかったから	12.1%	18.2%	45.5%	24.2%	100.0%	69.7%
10	大学生活は楽しそうに思えたから	11.8%	20.6%	32.4%	35.3%	100.0%	67.6%
11	趣味的な学びでは満足できなかったから	14.7%	17.6%	35.3%	32.4%	100.0%	67.6%
12	神戸山手大学の教育内容に興味があったから	5.7%	31.4%	34.3%	28.6%	100.0%	62.9%
13	人生の次のステージの準備をしたかったから	17.6%	20.6%	29.4%	32.4%	100.0%	61.8%
14	高校卒業時に大学進学を諦めたから	20.6%	17.6%	17.6%	44.1%	100.0%	61.8%
15	定年退職して時間が出来たから	37.1%	2.9%	20.0%	40.0%	100.0%	60.0%
16	今までの生活の中で疑問に思ったことなどを知ることがあったから	14.7%	32.4%	35.3%	17.6%	100.0%	52.9%
17	何もしないしていると呆けてしまうと思ったから	23.5%	29.4%	26.5%	20.6%	100.0%	47.1%
18	大学で資格取得をしたかったから	36.4%	18.2%	27.3%	18.2%	100.0%	45.5%
19	友人が欲しかったから	28.6%	34.3%	28.6%	8.6%	100.0%	37.2%
20	社会教育や生涯教育の講座などでは満足できなかったから	37.5%	28.1%	18.8%	15.6%	100.0%	34.4%
21	子育てが終わったから	55.9%	11.8%	8.8%	23.5%	100.0%	32.4%
22	他にやりたいことがなかったから	61.8%	14.7%	14.7%	8.8%	100.0%	23.5%
23	大学で学びそれを活かして就職したかったから	46.9%	31.3%	15.6%	6.3%	100.0%	21.9%
24	家族に勧められたから	72.7%	12.1%	15.2%	0.0%	100.0%	15.2%

年40万円相当の返済不要の奨学金も入学を後押ししていることが確認できた。

「大学そのものに憧れていたから」のように大学への漠然とした期待も入学を決める要因となっているようである。類似の質問項目として「大学生活は楽しそうに思えたから」も67.6%であった。

佐藤（2006）は、団塊世代の定年を「第2の人生」から「新たな出発」と捉える意識の転換が

なされていること、何らかの疾病や障害を得る者が大部分となる第4年代（85歳以上）の前の第3世代であること（児童・青年期が第1年代、親から独立し社会的責任を担う成人世代が第2年代）、そしてこの第3世代は、会社組織などの束縛を受けない自由な立場で個人としての生きがいを実現するために生きるという意味で、新たな世代の誕生であるとしている。「生活を充実させたかったから」の回答が多いのはそういった理由によるものであると考えられる。

それに対して、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が低かった質問項目は「家族に勧められたから」「他にやりたいことがなかったから」「大学で学びそれを生かして就職したかったから」であった。就職に関しては回答者が全員50歳以上で、60歳以上が77.1%を占めており（図表2参照）、当然の結果であるといえよう。

#### 4. 2 入学前の不安や障害

大学入学前の不安や障害についての質問は12項目でその結果が図表5である。「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答の合計が大きかった質問項目順に並べてある。

「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が大きかった質問項目は「パソコンや語学など不得意な分野があること」「入学試験に合格できるかどうか」「授業などについていくことが出来るかどうか」が50%以上で高かった。

図表5 入学前の不安や障害

		あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計	ややあてはまるとあてはまるの合計
1	パソコンや語学など不得意な分野があること	25.7%	11.4%	42.9%	20.0%	100.0%	62.9%
2	入学試験に合格できるかどうか	22.9%	20.0%	42.9%	14.3%	100.0%	57.1%
3	授業などについていくことが出来るかどうか	32.4%	17.6%	38.2%	11.8%	100.0%	50.0%
4	自分の健康問題や体力がついていけるか	57.1%	17.1%	20.0%	5.7%	100.0%	25.7%
5	家族の健康や介護問題があること	67.6%	8.8%	20.6%	2.9%	100.0%	23.5%
6	友人が出来るかどうか	65.7%	17.1%	17.1%	0.0%	100.0%	17.1%
7	若い学生と一緒に学ぶこと	48.6%	34.3%	17.1%	0.0%	100.0%	17.1%
8	経済的な面で課題があった	62.9%	22.9%	14.3%	0.0%	100.0%	14.3%
9	卒業までに時間がかかりすぎる	62.9%	25.7%	8.6%	2.9%	100.0%	11.4%
10	週4日～5日くらい通学すること	62.9%	25.7%	5.7%	5.7%	100.0%	11.4%
11	家族の理解が得られなかった	73.5%	17.6%	5.9%	2.9%	100.0%	8.8%
12	一緒に入学してくれる友人がいないこと	82.9%	11.4%	2.9%	2.9%	100.0%	5.7%

注 入学選考は、志望者のニーズと本学の教育内容に齟齬をきたさないこと、また本学のシニア50+制度を志望者に理解していただくためにAO方式としており、筆記試験はない。

それに対して低かった質問項目は、「一緒に入学してくれる友人がいないこと」「家族の理解が得なかった」「卒業までに時間がかかりすぎること」「週4日～5日くらい通学すること」「経済的な面で課題があった」であった。このことは出相(2009)が指摘していたシニアが正規学生として大学入学への阻む要因となっている、年齢面、健康面などへの不安、さらに卒業までに時間がかかりすぎる、経済的要因は学生自身にとっての困難や障害ではなかったことを意味している。

前述の「①大学入学の理由や経緯」の回答から大学進学を家族から積極的に勧められてはいないか、大学入学について家族の理解は得られていることがわかる。経済的にゆとりのある人が入学していることが示唆される。

#### 4. 3 大学生生活の様子

大学生生活の様子の質問は29項目でその結果が図表6である。図表6では、「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答の合計が大きかった質問項目順に並べてある。この質問項目は多いのでいくつかに分類して考察することにしたい。

##### ①全体として高い大学生生活の満足度

前述したように入学前は勉強についていけるなどの不安はあったようであるが、大学入学後はどうであろうか。「全体として大学生生活に充実している(いた)」の質問で、「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答の合計が88.2%で、充実した学生生活を過ごしているという結果が得られた。

##### ②大学での学び

図表6で「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が大きかった質問項目をみると、大学での学びについての項目が上位である。「授業で学んだことをさらに自分で自主的に調べることがある(あった)」88.6%、「大学の授業にはほぼ休まず出席している(した)」88.2%、「大学に入学して、学ぶことの楽しさを知った」88.2%、「大学の学びの中で、もっと知りたい、探求したいという気持ちになった」88.2%、「大学に来て、今までより興味や関心を持つことの範囲や視野が広がった」88.2%、「大学で学んだことが自分の過去の経験や自分の仕事と結びついて理解が深まったことがある」79.4%、「大学の授業にはおおむね満足できる(できた)」76.5%、「大学での勉強は入学前の予想よりも楽しい」73.5%であった。

「4. 1 大学入学の理由や経緯」で述べたように、入学時に視野を広げることや最新の知識を学びたいなど、学ぶことそれ自体を入学の目的であったが、この結果から入学当初の目的を神戸山手大学の学びの中で得られたと考えることが出来よう。それと同時に大学の授業には休まず出席し、授業で学んだことを自分で自主的に調べるような勉学に熱心なシニア学生の姿



図表6 大学生活の様子

		あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計	「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計
1	授業で学んだことをさらに自分で自主的に調べることがある (あった)	2.9%	8.6%	45.7%	42.9%	100.0%	88.6%
2	大学の授業にほぼ休まず出席している (した)	5.9%	5.9%	2.9%	85.3%	100.0%	88.2%
3	全体として大学生生活に充実している (いた)	2.9%	8.8%	38.2%	50.0%	100.0%	88.2%
4	大学に入学して、学ぶことの楽しさを知った	5.9%	5.9%	32.4%	55.9%	100.0%	88.2%
5	大学の学びの中で、もっと知りたい、探求したいという気持ちになった	0.0%	11.8%	35.3%	52.9%	100.0%	88.2%
6	大学に来て、今までより興味や関心を持つことの範囲や視野が広がった	0.0%	11.8%	32.4%	55.9%	100.0%	88.2%
7	授業(語学・PC・ゼミは除く)の内容は難しい(難しかった)	0.0%	18.2%	60.6%	21.2%	100.0%	81.8%
8	大学で学んだことが自分の過去の経験や自分の仕事と結びついて、理解が深まったことがある	2.9%	17.6%	50.0%	29.4%	100.0%	79.4%
9	大学の授業にはおおむね満足できる(できた)	2.9%	20.6%	38.2%	38.2%	100.0%	76.5%
10	大学でのシニア同士の友人関係は良好である	8.6%	17.1%	37.1%	37.1%	100.0%	74.3%
11	大学での勉強は入学前の予想よりも楽しい	5.9%	20.6%	38.2%	35.3%	100.0%	73.5%
12	語学の授業ではだいたい予習・復習をおこなっている(おこなっていた)	6.1%	21.2%	39.4%	33.3%	100.0%	72.7%
13	大学に入って日々の生活が活動的になった	2.9%	25.7%	42.9%	28.6%	100.0%	71.4%
14	若い学生と一緒に学んだり、活動することは楽しい(かった)	8.8%	20.6%	32.4%	38.2%	100.0%	70.6%
15	大学での若い学生との友人関係は良好である	5.7%	25.7%	48.6%	20.0%	100.0%	68.6%
16	語学の授業は難しい(難しかった)	9.1%	24.2%	39.4%	27.3%	100.0%	66.7%
17	私にとって大学生生活は忙しい(かった)	17.1%	17.1%	37.1%	28.6%	100.0%	65.7%
18	年齢や国籍や経歴の違う友人が増えた	11.4%	22.9%	31.4%	34.3%	100.0%	65.7%
19	大学生生活は私にとって生きがいになっている(いた)	8.8%	29.4%	29.4%	32.4%	100.0%	61.8%
20	パソコンの授業は難しい(難しかった)	20.0%	20.0%	43.3%	16.7%	100.0%	60.0%
21	大学での留学生との友人関係は良好である	5.9%	35.3%	44.1%	14.7%	100.0%	58.8%
22	大学では、友人と助け合って勉強している(いた)	20.6%	23.5%	35.3%	20.6%	100.0%	55.9%
23	大学の施設・設備は充実している(いた)	23.5%	20.6%	38.2%	17.6%	100.0%	55.9%
24	語学以外の授業ではだいたい予習・復習をおこなっている(おこなっていた)	5.9%	47.1%	32.4%	14.7%	100.0%	47.1%
25	大学での友人関係に悩んだことがある(あった)	30.3%	24.2%	27.3%	18.2%	100.0%	45.5%
26	大学の授業にシニア層向け(例:シニアの健康の基礎知識や卒業後の社会参加に役立つ知識など)の授業を設置して欲しい(欲しかった)	32.4%	23.5%	23.5%	20.6%	100.0%	44.1%
27	大学の勉強内容は入学前の期待と大きく異なっている(いた)	8.8%	50.0%	29.4%	11.8%	100.0%	41.2%
28	大学の専門分野が自分にあわないと感じる	25.7%	40.0%	25.7%	8.6%	100.0%	34.3%
29	全体として大学の授業は私にとって易しすぎる	14.3%	62.9%	14.3%	8.6%	100.0%	22.9%

が浮かびあがる。

学ぶことそれ自体を目的と考え、そこに楽しさや充実感を得ようとする傾向がシニア学生には極めて強いと指摘できる。自発的な学習意欲、さらに大学での学びをきっかけにさらに深く学ぼうとし、視野を広げていくような学習のあり方をみることが出来る。

それと同時に回答者は多くないが、「大学の授業にシニア層向け（例：シニアの健康の基礎知識や卒業後の社会参加に役立つ知識など）の授業を設置して欲しい（欲しかった）」44.1%、「大学の勉強内容は入学前の期待と大きく異なっている（いた）」41.2%、「大学の専門分野が自分にあわないと感じる」34.3%、「全体として大学の授業は私にとって易しすぎる」22.9%の回答があり、一部のシニア学生と大学との間でミスマッチが生じていることも指摘しておきたい。

### ③学習に関する困難

前述の「4. 2 入学前の不安や障害」で「パソコンや語学など不得意な分野があること」「授業などについていくことが出来るかどうか」の回答が高かった。こういった点は、入学後どうであったであろうか。

「授業（語学・PC・ゼミは除く）の内容は難しい（難しかった）」81.8%、「語学の授業は難しい（難しかった）」66.7%、「パソコンの授業は難しい（難しかった）」60.0%という回答で当初の懸念であったパソコンや語学よりもそれ以外の一般の授業の方が難しいと感じているようである。それと同時に、「語学の授業ではだいたい予習・復習をおこなっている（おこなっていた）」72.7%で、語学の予習復習を熱心におこなうシニア学生の姿がある。「語学以外の授業ではだいたい予習・復習をおこなっている（おこなっていた）」47.1%で、すべての科目で予習復習を行っているわけではないということであろう。

### ④授業以外でも大学生生活をエンジョイするシニア学生

大学生生活を過ごす面で重要である大学での友人関係に関する質問項目については、「大学でのシニア同士の友人関係は良好である」74.3%、「若い学生と一緒に学んだり、活動することは楽しい（かった）」70.6%、「大学での若い学生との友人関係は良好である」68.6%、「年齢や国籍や経歴の違う友人が増えた」65.7%という結果となった。その反面、「大学での友人関係に悩んだことがある（あった）」45.5%の回答があり、友人関係の難しさを垣間見る結果となった。

ただ、ここで注目すべきは、シニア学生と若い学生との関係はおおむね良好で、若い学生との学びや活動も楽しんでいる姿である。一般の学生もふくめ神戸山手大学での学び全体が、様々な年齢の人たち、様々な人生を経てきた人たちとの中ではぐくまれ行われていることを示唆しているといえよう。

また、ここでは図表はしめさないが、本調査でシニア学生の神戸山手大学でのサークルや部活動（シニア学生だけの活動ではなく若い学生と一緒に活動）の参加経験も質問している。「現在参加している」「現在は参加していないが、過去には参加していた」の合計は45.7%で、約半数がサークルや部活動の参加または参加経験を持ち、勉強以外の面でも大学生生活をエンジョイ



している様子がうかがえる結果となった。シニア学生たち授業だけに限らず大学生活全般に積極的な姿勢で、豊かな大学生活を実現しているようである。

こうした人間関係や活動の広がりや、毎日大学に通い、一般の若い学生との交流と通して生み出されているといえよう。これはすべての授業、ゼミ、さらに課外活動までも一般学生とともにおこなう「統合型」の神戸山手大学の特徴の一つであるといえよう。

## 5. まとめと今後の課題

### 5. 1 まとめ

大学入学の理由や経緯では、視野を広げるや最新の知識を学びたいなど、学ぶことそれ自体を目的と考えていたこと、大学への憧れといった大学生活への漠然とした期待、生活全体を充実させたい気持ちが進学動機として大きかった。

入学前の不安や障害として、経済的な問題や家族の反対の問題は少なく、入学試験に合格するのか、勉強についていけるかなどの大学での学びに関する事が入学前の不安であった。

大学生活の様子としては、入学後は大学での学びに概ね満足しているという結果が得られた。大学での学びは学ぶことそれ自体を目的と考え、そこに楽しさや充実感を得ようとする傾向がシニア学生には極めて強いと指摘できる。自発的な学習意欲、さらに大学での学びをきっかけにさらに深く学ぼうとし、視野を広げていくような学習のあり方をみることが出来る。

入学前に心配であった語学やパソコンなどは予習・復習を熱心に行い、乗り越えている姿も見えてきた。

大学での友人関係は概ね良好で 若い学生ともに学び楽しんでた。勉強以外の面でも大学のサークル活動などを通して大学生活をエンジョイしている様子がうかがえる結果となった。シニア学生たち授業だけに限らず大学生活全般に積極的な姿勢で、豊かな大学生活を過ごしていることがわかった。

### 5. 2 今後の課題

今回の質問紙調査の項目にはあるが、紙幅の都合上ふれることは出来なかったのが、学年が上がると大学でも学びについてのどのような変化があるのか、または変化がないのかなどの検討である。4年生を中心に卒業論文やゼミについての質問を行っている。本学は卒業論文が必修で、卒業論文は大学での学びの総仕上げであり、大学での学びの中で大きな意義を持っていることが今回の質問紙調査から明らかになっている。

また、神戸山手大学シニア50+制度がはじまり、すでに3期の卒業生を送り出している。卒業生の追跡調査も必要である。それと同時に現在在学中のシニア学生が学んだ成果をいかすことをどのように考えているか、また、実際にどのような活動をしようとしているか、そのためにどのような準備を行っているのかなどをあきらかにすることも今後に残された重要な課題で

ある。

## 引用文献

- 出相康裕, 2009「市民大学受講者の大学への入学志願に対する阻害要因 ——大阪府内における受講者調査から——」大阪教育大学紀要 第4部門 教育科学 57(2), 123-135
- 福原栄太郎, 2008「神戸山手大学シニア50+（フィフティプラス）入学制度への取りくみ」神戸山手大学紀要, 第11号, 125-132
- 堀 薫夫, 2011「シニア層向け大学開放に関する一考察」大阪教育大学紀要 第IV部門 第59巻 第2号, 207-218
- 飯嶋香織, 行木敬, 2013「生涯学習におけるシニア大学生の学びのニーズ ——神戸山手大学のシニア学生を対象にした調査結果から——」神戸山手大学紀要, 第15号, 63-73
- 文部科学省（超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会）, 2012『長寿社会における生涯学習の在り方について ～人生100年 いくつになっても 学ぶ幸せ「幸齢社会」～』